

建物概要			
建物名称	小牧Ⅱロジスティクスセンター	敷地面積	21,407 m ²
建設地	愛知県小牧市大字河内屋新田字文戸60-1外	建築面積	12,668 m ²
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	延床面積	35,641 m ²
建物用途	物流施設	階数	地上3F
竣工年月	2019年9月4日	構造	S造
直近の大規模改修実施年月		平均居住人員	人
		年間使用時間	時間/年
評価の段階	運用段階評価	評価の実施日	2023年9月21日
作成者	薄井 芳文	不動産評価員番号	ふ-000811-24
確認日	2023年9月21日	確認者	薄井 芳文
不動産評価員番号	ふ-000811-24		

評価結果			
70.1	/100	合計	
(得点)	(満点)		
ポイントは小数点第1位までの表示とする			
S ランク:★★★★★ ≧ 78			
A ランク:★★★★ ≧ 66			
B+ランク:★★★ ≧ 60			
B ランク:★★ ≧ 50			

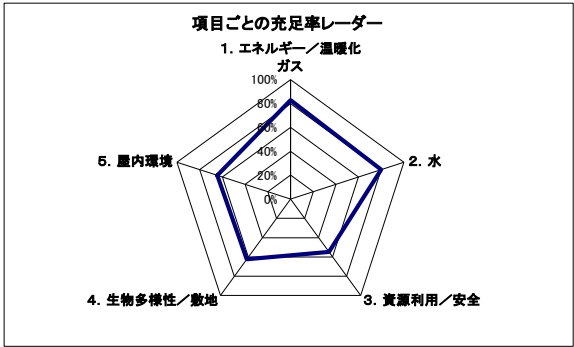
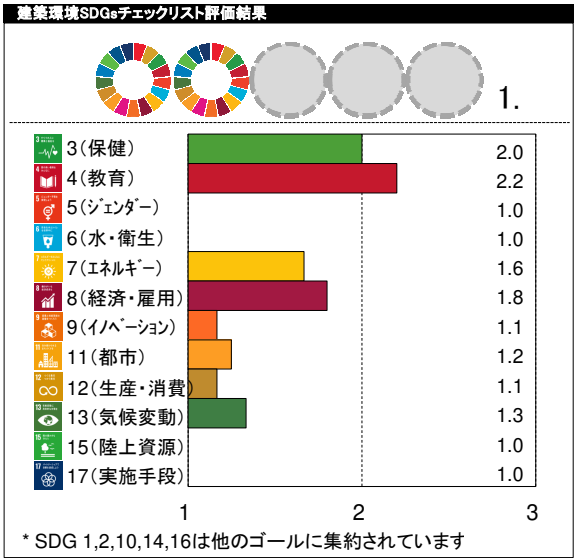
1. エネルギー／温暖化ガス			
評価	最大加算点	必須項目	指標 (〃は参考値) 評価値
適合		〃省エネルギー基準への適合、目標設定、モニタリング、運用管理体制	一次エネルギー(目標値)
0.0	加算点1	根拠等 〃省エネルギー基準への適合、目標設定、モニタリング実施、運用管理体制の構築	161 MJ/m ² ・年
18.0	20	1.1 使用・排出原単位(計算値)	一次エネルギー(計画値)
		根拠等 C/S=0.66	MJ/m ² ・年
			二次エネルギー(〃)
			kWh/m ² ・年
			CO2排出量(〃)
			kg-CO ₂ /m ² ・年
5.0	5	1.2 使用・排出原単位(実績値)	水道光熱費
		根拠等 実績値(2022/5～2023/4)を使用	537.2 円/m ² ・年
3.0	5	1.3 省エネルギー(仕様評価)	省エネ計算対象外の倉庫エリア等
		根拠等 〃(1)、(3)、(5)を評価	導入された対策項目数
3.0	5	1.4 自然エネルギー	3.0 項目
		根拠等 特になし	利用率
29.0	35	合計	— %

2. 水			
評価	最大加算点	必須項目	指標 評価値
適合		〃目標設定、モニタリング、運用管理体制	水使用量(目標値)
		根拠等 〃目標設定、モニタリングの実施	34.7 L/m ² ・年
	0	2.1 水使用量(計算値)	評価しない
8.0	10	2.2 水使用量(仕様評価)	水使用量(計画値)
		根拠等 〃(1)、(2)、(5)を評価	L/m ² ・年
	0	2.3 水使用量(実績値)	評価しない
8.0	10	合計	

3. 資源利用／安全			
評価	最大加算点	必須項目	指標 評価値
適合		〃新耐震基準への適合またはIs値、If値	なし
		根拠等 〃新耐震基準への適合	
3.0	5	3.1 高耐震・免震等	3.1.1と3.1.2の点数の高い方で評価
3.0		3.1.1 耐震性	
		根拠等 建築基準法レベル	
3.0		3.1.2 免震・制震・制振性能	
		根拠等 特になし	
3.0	5	3.2 再生材利用率・廃棄物処理負荷抑制	
		3.2.1 再生材利用率	①と②の平均で評価する
3.0		① 躯体材料	
3.0		② 非構造材料	リサイクル材品目数(非構造材)
		3.2.2 廃棄物処理負荷抑制	1 品目
3.0	5	3.3 躯体材料の耐用年数	
		根拠等 建築基準法レベル	経過年数＋今後の想定耐用年
1.9	5	3.4 主要設備機器の更新必要間隔／設備の自給率向上／維持管理／バリアフリー	4.1,3.4.2,3.4.3,3.4.4の平均
3.8		3.4.1 主要設備機器の更新必要間隔	
		根拠等 別途計算式による	更新年数の平均値
2.0		3.4.2 設備(電力等)の自給率向上	21 年
		根拠等 〃(1)を評価	自給率向上の取組数
1.0		3.4.3 維持管理	1 項目
		根拠等 特になし	維持管理に関する取組数
1.0		3.4.4 バリアフリー対策	0 ポイント
		根拠等 特になし	
10.9	20	合計	

4. 生物多様性／敷地			
評価	最大加算点	必須項目	指標 評価値
適合		〃特定外来生物・未判定外来生物・生態系被害防止外来種を使用しない	
		根拠等 〃外来生物法を遵守	なし
8.0	10	4.1 生物多様性の向上	
		根拠等 〃(2)、(3)を評価	②取組表による場合のポイント
4.2対象外の時は点数を倍		4.2 土壌環境品質・ブラウンフィールド再生	2 ポイント
0.0	0	根拠等 〃土壌汚染対策法の要措置区域にない	
[対策不要は対象外]		4.3 公共交通機関の接近性	なし
2.5	5	4.3.1 公共交通機関の接近性	
1.0		根拠等 〃とくになし	鉄道駅またはバス停からの距離
		4.3.2 交通結節点への接近性、敷地周辺への配慮	— 分圏内
4.0		根拠等 〃(1)、(2)を評価	取組数
		4.4 自然災害リスク対策	2 項目
2.0	5	根拠等 〃液状化、津波、斜面災害、落雷の恐れはない	
		根拠等 〃水害、地震動リスクがあり、有効な対策の実施なし	リスクの合計数
			2 種類
12.5	20	合計	

5. 屋内環境			
評価	最大加算点	必須項目	指標 評価値
適合		〃建築物衛生管理基準の準拠または質問票への適合	
		根拠等 〃質問票への適合	なし
1.6	5	5.1 昼光利用	5.1.1の点数×2/3+5.1.2の点数×1/3
1.0		5.1.1 自然採光	開口率
		根拠等 〃開口率10%未満	— %
3.0		5.1.2 昼光利用設備	昼光利用設備
		根拠等 〃特になし	0 種類
4.0	5	5.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積
		根拠等 〃自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上	6.8 m ²
4.0	5	5.3 眺望・視環境	天井高
		根拠等 〃天井高2.7m＋窓の設置	2.7 m以上
9.6	15	合計	



環境性能の特徴

- ・省エネ計算の結果値が高く、水道光熱費が統計範囲の上位範囲に位置しているため、「エネルギー/温暖化ガス」の項目が高い点数となっている。
- ・自動水栓や節水型便器の採用により、「水」の項目で評価点が高い。
- ・食餌木や自生種の採用、高速道路のICに近接する立地であることが、「生物多様性/敷地」の項目で評価点を高めている。
- ・高い天井高の確保や自然換気窓を多く設置していることにより、「屋内環境」の評価点を高めている。

評価機関、評価員記名欄

認証機関記名欄

建築環境SDGs(不動産)チェックリスト

本評価の実施有無

実施する

←SDGs評価を選択しない場合の選択

本評価で対象とする用途

物流施設

←評価する建物の用途の入力(プルダウンメニュー)

SDGsの ゴール/ ターゲット	全体 通し 番号	ゴール内 通し 番号	チェック項目	取組内容	取り組んで いない	取り組んで いる	積極的に取 組んでいる	特筆事項	加点 要素	得点
ゴール 1. 貧困を なくそう				ゴール1の内容はゴール12 等に集約されています						
ゴール 2. 飢餓をゼロ に				ゴール2の内容はゴール12 等に集約されています						
ゴール 3. すべての人 に健康と福	1	3-1	快適な室温を確保する	建築物衛生管理基準に準拠して室温を管理している						3
	2	3-2	適切な換気対策をする	建築物衛生管理基準に準拠して室内の浮遊粉じん、一酸化炭素、二酸化炭素を管理している						3
	3	3-3	適切な湿度管理をする	建築物衛生管理基準に準拠して相対湿度を管理している						3
	4	3-4	室内の空気質について対策する	建築物衛生管理基準に準拠してホルムアルデヒドを管理している						3
	5	3-5	禁煙に関して配慮をする	禁煙または喫煙ブースの設置等、非喫煙者が煙に曝されないような工夫をしている	◎		○	(加点する場合には特筆事項を記入)	☐	1
	6	3-6	水回りの衛生を維持する	水回りの衛生維持に取り組んでいる ○排水口等の清掃の手順書やマニュアルを用意 ○衛生器具等の汚れ清掃の手順書やマニュアルを用意				3.4.3維持管理 I-8)水回りの衛生、又はII-7)水回りの衛生に該当する場合には、加点要素にチェック	☐	1
	7	3-7	室内の明るさを高める	自然採光の開開口部を積極的に計画し、昼光利用設備を備えている。						1
	8	3-8	遮音性能を確保する	床に遮音対策を講じ、かつ界壁遮音対策を講じている。						対象外
	9	3-9	防犯対策を施す	以下のことを行っている。 ○エントランスにセキュリティシステムを設置 ○ITVカメラ監視 ○日中には常駐監視 ○夜間はセキュリティ会社に警報が配信						対象外
	10	3-10	バリアフリー対策を施す	建築物移動等円滑化基準を満たした上で、全ての人が不自由なく建築物を利用することができる工夫をしている						1
ゴール 4. 質の高い教育をみんなに	11	4-1	家庭の学習スペースを整える	以下の取組みに取り組んでいない（該当項目なし）、取り組んでいる（該当項目1つ）、積極的に取り組んでいる（該当項目2つ以上） ○集合住宅の住戸において、独立した学習スペースがある ○集合住宅の住戸において、共用スペースの中に学習スペース・学習コーナーを配置している ○集合住宅の住戸において、家族のステージ変化に合わせて活用できる学習スペースの工夫がある ○集合住宅の共用部に学習スペース・学習コーナーがある	◎	○	○			対象外
	12	4-2	快適な室温を確保する	建築物衛生管理基準に準拠して室温を管理している						3
	13	4-3	適切な換気対策をする	建築物衛生管理基準に準拠して室内の浮遊粉じん、一酸化炭素、二酸化炭素を管理している						3
	14	4-4	室内の空気質について対策する	建築物衛生管理基準に準拠してホルムアルデヒドを管理している						3

SDGsの ゴール/ ターゲット	全体 通し 番号	ゴール内 通し 番号	チェック項目	取組内容	取り組んで いない	取り組んで いる	積極的に取 り組んでい る	特筆事項	加点 要素	得点
	15	4-5	遮音性能を確保する	床に遮音対策を講じ、かつ界壁遮音対策を講じている。						対象外
	16	4-6	すべての人が学習を受けられる環境を整える	以下の取組に取り組んでいる（該当項目2つ）、部分的に取り組んでいる（該当項目1つ）、取り組んでいない（該当項目0） ○入居者への建物の省エネ状況や取組みの通知 ○来館者、入居者への建物の省エネ状況や取組みの表示	●	○	○			1
	17	4-7	維持管理における管理者への教育	館内の環境に関する管理者への職業教育を整備をしている				館内の環境に関する管理者への職業教育を整備している場合には、加点要素にチェック	☐	1
ゴール 5. ジェンダー 平等を実現 しよう	18	5-1	家事負担を軽減する 子育て・介護等の負担を軽減する	以下の取組に取り組んでいない（該当項目なし）、取り組んでいる（該当項目1つ）、積極的に取り組んでいる（該当項目2つ以上） 1) 家事負担の軽減・キッチン等の複数人で家事を行いやすい空間計画（複数の家事動線、複数人作業への対応）・洗濯干し導線をコンパクトにする工夫（隣接している、同一フロア等） 2) 子育て負担の軽減・乳幼児の事故・けが等に配慮した建具等・乳幼児に目の届きやすい空間の配慮 3) 介護負担の軽減・介護時の移動の容易性への配慮（トイレ、リビング、お出かけ、庭）（建具の有効幅 3枚引戸 段差処理の工夫、介護対応改修への備え）・介護者が介添えできる空間確保（トイレ、浴室、ベッド回り等）	●	○	○			対象外
	19	5-2	バリアフリー対策を 施す	建築物移動等円滑化基準を満たした上で、全ての人が不自由なく建築物を利用することができる工夫をしている						1
	20	5-3	LGBTに配慮する	以下の取組に取り組んでいる（該当する）、取り組んでいない（該当しない） ○男女共用型トイレの設置	●		○	（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	1
ゴール 6. 安全な水と トイレを 世界中に	21	6-1	節水機器を採用する	節水型便器を採用している、水栓類の節水を行っている				【物流】【集合住宅】 2.2水使用量(仕様評価) 1)水栓類の節水に適合する場合には、加点要素にチェック	☐	1
								【物流】【集合住宅】 2.2水使用量(仕様評価) 2)節水型便器に適合する場合には、加点要素にチェック	☐	
								【集合住宅】 2.2水使用量(仕様評価) 3)節湯器具に該当する場合には、加点要素にチェック	☐	
	22	6-2	雨水・雑排水を利用する	雨水、雑排水の利用に関する取組をしている				【物流】【集合住宅】 2.2水使用量(仕様評価) 3)雨水利用の採用（集合住宅の場合には、4)雨水利用の採用）に該当する場合には、加点要素にチェック	☐	1
	23	6-3	雨水の浸透に努める	雨水流出を抑制する工夫をしている（貯留槽、浸透槽等）	●		○			1
	24	6-4	土壌汚染を防ぐ	対象敷地の場合、土壌汚染調査、拡散防止計画の届出、措置を行う。さらに進んで無害化措置を行う。						対象外
	25	6-5	水回りの衛生を維持する	水回りの衛生維持に取り組んでいる ○排水口等の清掃の手順書やマニュアルを用意 ○衛生器具等の汚れ清掃の手順書やマニュアルを用意				3-6の評価により自動転記		1

SDGsの ゴール/ ターゲット	全体 達成 率	ゴール内 達成 率	チェック項目	取組内容	取り組んで いない	取り組んで いる	積極的に取 組んでいる	特筆事項	加 点 要 素	得点
	26	6-6	給排水設備を維持管理する	給排水・衛生設備の業務手順書を用意				3.4.3維持管理 I-3)業務手順(またはII-3)手順)において、給排水設備の維持管理業務手順書を整備している場合には、加点要素にチェック	☐	1
ゴール 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに	27	7-1	エネルギー使用量を削減する	空調、換気、照明、給湯、昇降機の使用エネルギー量削減に資する取組をしている						3
	28	7-2	省エネ性能の高い設備機器・システムを採用する	省エネ性能の高い設備機器を採用をしている						3
	29	7-3	パッシブデザインに取り組む	以下の取組に取り組んでいる ○昼光利用（自然採光・昼光利用設備） ○自然換気性能 ○眺望・視環境				（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	2
	30	7-4	創エネに取り組む	以下の取組に取り組んでいない（該当項目なし）、取り組んでいる（該当項目1つ）、積極的に取り組んでいる（該当項目2つ以上） ○太陽熱利用（温水利用）等 ○太陽光利用（電力利用）等 ○未利用熱利用（地中熱利用/井水利用/河川水利用ヒートポンプ）等 ○その他（バイオマス、他）	●	○	○	（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	1
	31	7-5	蓄エネに取り組む	以下の取組に取り組んでいない（該当項目なし）、取り組んでいる（該当項目1つ）、積極的に取り組んでいる（該当項目2つ以上） ○太陽光発電等と連携する蓄電池 ○EV・PHV等の充電設備の設置 ○蓄熱槽等の設置	●	○	○	（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	1
	32	7-6	エネルギーを管理する	以下の取組に取り組んでいる ○エネルギー消費量の目標設定 ○モニタリングの実施 ○運用管理体制の構築				1エネルギー【必須項目】 ②エネルギー消費量の目標設定 ③モニタリングの実施 ③運用管理体制の構築 の全てに該当する場合、加点要素にチェック	☐	1
	33	7-7	非常時にエネルギーを確保する	電気設備の信頼性向上に向けた取組をしている（非常用発電設備・無停電電源設備を備えているか、地下空間への設置を避けているか等）						2
	34	7-8	ZEH、ZEB化に取り組む	以下の取組に取り組んでいない（該当項目なし）、取り組んでいる（該当項目1つ） ○ZEB Ready以上の取組がなされている（集合住宅は対象外）	●		○			1
	35	7-9	カーボンニュートラルに向けて取り組む	地球温暖化対策に関する取組をしている				（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	1
ゴール 8. 働きがいも経済成長も	36	8-1	知的生産性を高める場を創る	以下の取組に取り組んでいる（該当項目2つ以上）、部分的に取り組んでいる（該当項目1つ）、取り組んでいない（該当項目0） ○知的生産性を高めるという観点を考慮して計画・整備した作業スペースの有無 ○フォーマル、インフォーマルなコミュニケーションのスペースの有無 ○リフレッシュスペース等の確保	●	○	○	（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	対象外
	37	8-2	快適な室温を確保する	建築物衛生管理基準に準拠して室温を管理している						3
	38	8-3	室内の明るさを高める	自然採光の開口部を積極的に計画し、昼光利用設備を備えている。						1

SDGsの ゴール/ ターゲット	全体 通し 番号	ゴール内 通し 番号	チェック項目	取組内容	取り組んで いない	取り組んで いる	積極的に取 り組んでい る	特筆事項	加 点 要 素	得 点
	39	8-4	適切な換気対策をする	建築物衛生管理基準に準拠して室内の浮遊粉じん、一酸化炭素、二酸化炭素を管理している						3
	40	8-5	室内の空気質について対策する	建築物衛生管理基準に準拠してホルムアルデヒドを管理している						3
	41	8-6	遮音性能を確保する	床に遮音対策を講じ、かつ界壁遮音対策を講じている。						対象外
	42	8-7	建築躯体等を継続して使用する	既存建築躯体を再利用している				3.2.1再生材利用率・地域材・木材利用 ①躯体材料におけるリサイクル材の使用 →既存建築躯体を使用している場合には、加点要素にチェック	☐	1
	43	8-8	躯体材料においてリサイクル材を使用する	構造耐力上主要な部分にリサイクル材資材を用いている						1
	44	8-9	躯体材料以外においてリサイクル材を使用する	躯体材料以外の部分にリサイクル材資材を用いている						2
	45	8-10	持続可能な森林から産出された木材を使用する	持続可能な森林から産出された木材を使用している				3.2.1再生材利用率・地域材・木材利用 ①躯体材料において、木材利用により加点にする場合に、加点要素にチェック 3.2.1再生材利用率・地域材・木材利用 ②非構造材料において、木材利用により加点にする場合に、加点要素にチェック	☐ ☐	1
	46	8-11	躯体材料を長く使う	躯体の耐用年数を長く設定している						2
	47	8-12	自然災害に耐える	以下の取組に取り組んでいる ○ハザードマップ等により、敷地のハザードを確認 ○リスクがある場合の対策を講じている（水害、液状化、津波、地震動、斜面災害、落雷）						1
ゴール 9. 産業と 技術革新の 基盤を つくろう	47	9-1	エネルギーに関する最新の技術を採用する	以下の取組に取り組んでいる（該当項目3つ以上）、部分的に取り組んでいる（該当項目1つor2つ）、取り組んでいない（該当項目0） ○太陽光発電の工夫 ○燃料電池の工夫 ○蓄電池の工夫 ○その他	●	○	○	（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	1
	48	9-2	リフレッシュスペースを確保する	快適なオフィス生活に必要なリフレッシュスペース等の工夫をしている	●	○	○	（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	1
	49	9-3	コミュニケーションスペースを確保する	以下の取組に取り組んでいない（該当項目なし）、取り組んでいる（該当項目1つ）、積極的に取り組んでいる（該当項目2つ以上） ○知的生産性を高めるという観点を考慮して計画・整備した集中しやすいスペースの有無 ○知的生産性を高めるという観点を考慮して計画・整備したフォーマルなコミュニケーションスペースの有無 ○知的生産性を高めるという観点を考慮して計画・整備したインフォーマルなコミュニケーションスペースの有無	●	○	○	（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	1
	50	9-4	レジリエントデザインの導入	設備（電力等）の自給率向上に関する取組みを行っている						1
	51	9-5	主要設備機器を長く使う	主要設備機器の更新・交換などの必要間隔を長くするための工夫をしている						2

SDGsの ゴール/ ターゲット	全体 通し 番号	ゴール内 通し 番号	チェック項目	取組内容	取り組んで いない	取り組んで いる	積極的に取 り組んでい る	特筆事項	加点 要素	得点
	52	9-6	敷地のハザードを確認し、情報を共有する	以下の取組に取り組んでいる ○ハザードマップ等により、敷地のハザードを確認 ○リスクがある場合の対策を講じている（水害、液状化、津波、地震動、斜面災害、落雷）						1
ゴール 10. 人や国の 不平等を なくそう	ゴール10の内容はゴール5 等に集約されています									
ゴール 11. 住み続け られる まちづくり を	53	11-1	ローコスト化、ランニングコストの低減に向け、環境性能を確保する	自然採光の開開口部を積極的に計画し、昼光利用設備を備えている。 建築物衛生管理基準に準拠して室内の温度、湿度、浮遊粉じん、一酸化炭素、二酸化炭素を管理している 主要設備機器の更新・交換などの必要間隔を長くするための工夫をしている。修繕・更新費の平準化に資する取組						2
	54	11-2	交通負荷を抑える	建物の利用者が公共交通機関を利用している						1
	55	11-3	雨水・雑排水を利用する	雨水、雑排水の利用に関する取組をしている				6-2の評価により自動転記		1
	56	11-4	土壌汚染を防ぐ	対象敷地の場合、土壌汚染調査、拡散防止計画の届出、措置を行う。さらに進んで無害化措置を行う。						対象外
	57	11-5	主要設備機器を長く使う	主要設備機器の更新・交換などの必要間隔を長くするための工夫をしている				（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	2
	58	11-6	レジリエントデザインの導入	設備（電力等）の自給率向上に関する取組みを行っている						1
	59	11-7	敷地のハザードを確認する	以下の取組に取り組んでいる ○ハザードマップ等により、敷地のハザードを確認 ○リスクがある場合の対策を講じている（水						1
	60	11-8	防犯対策を施す	以下のことを行っている。 ○エントランスにセキュリティシステムを設置 ○ITVカメラ監視 ○日中には常駐監視 ○夜間はセキュリティ会社に警報が配信						対象外
	61	11-9	生物環境を守る	生物環境の保全と創出に関する配慮をしている（生物環境）				4.1生物多様性の向上 ①評価・認証の取得(レベル4以上)に該当する場合には、加点要素にチェック ②取組み表による評価 1)自然資源の保全に該当する場合には、加点要素にチェック ②取組み表による評価 2)種の多様性の保全に該当する場合には、加点要素にチェック ②取組み表による評価 5)生物資源の管理と利用に該当する場合には、加点要素にチェック	☐ ☐ ☐ ☐	1
	62	11-10	環境配慮建築のラベリング・認証を活用する	環境配慮建築をホスティング・認証制度を積極的に活用し、取得している、または取得予定である。 （CASBEE-不動産、CASBEE-建築、CASBEEウェルネスオフィス、BELS、ZEBのいずれかの認証）	●	○	○	（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	1

SDGsの ゴール/ ターゲット	全体 通し 番号	ゴール内 通し 番号	チェック項目	取組内容	取り組んで いない	取り組んで いる	積極的に取 り組んでい る	特筆事項	加 点 要 素	得 点
ゴール 12. つくる責任 つかう責任	63	12-1	躯体材料を長く使う	躯体の耐用年数を長く設定している						2
	64	12-2	自然災害に耐える	以下の取組に取り組んでいる ○ハザードマップ等により、敷地のハザードを確認 ○リスクがある場合の対策を講じている（水						1
	65	12-3	持続可能な森林から木材を調達する	持続可能な森林から産出された木材を使用している				8-10の評価により自動転記		1
	66	12-4	定期点検	維持管理において環境配慮の取組みを行っている						1
	67	12-5	地域資源の活用に取り組む	地域性のある素材の使用（構造材、内装材、外装材、外構等へ）に関する工夫をしている				地域性のある素材の使用（構造材、内装材、外装材、外構等）を行っている場合には、加要素にチェックする	☐	1
	68	12-6	建築躯体等を継続して使用する	既存建築躯体を再利用している				8-7の評価により自動転記		1
	69	12-7	躯体材料においてリサイクル材を使用する	構造耐力上主要な部分にリサイクル材資材を用いている				8-8の評価により自動転記		1
	70	12-8	躯体材料以外においてリサイクル材を使用する	躯体材料以外の部分にリサイクル材資材を用いている				8-9の評価により自動転記		2
	71	12-9	節水機器を採用する	節水型便器を採用している、水栓類の節水を行っている				6-1の評価結果により自動転記		1
	72	12-10	廃棄物の発生を抑える	建物運用時における廃棄物の発生抑制、分別措置、減容・減量化の取組をしている				（加点する場合には特筆事項を記入）	☐	対象外
	73	12-11	エネルギーを管理する	以下の取組に取り組んでいる（該当項目1つ以上）、取り組んでいない（該当項目0） ○エネルギー消費量の目標設定 ○モニタリングの実施 ○運用管理体制の構築				7-6の評価により自動転記		1
	74	12-12	汚水を正しく処理する	給排水・衛生設備の業務手順書を用意	●		○			1
	75	12-13	土壌汚染を防ぐ	対象敷地の場合、土壌汚染調査、拡散防止計画の届出、措置を行う。さらに進んで無害化措置を行う。				11-4の評価により自動転記		対象外
	76	12-14	カーボンニュートラルに向けて取り組む	地球温暖化対策に関する取組をしている				7-9の評価により自動転記		1
ゴール 13. 気候変動に 具体的な 対策を	77	13-1	カーボンニュートラルに向けて取り組む	地球温暖化対策に関する取組をしている				7-9の評価により自動転記		1
	78	13-2	周辺の熱的影響を低減する	生物環境の保全と創出に関して配慮している（緑地）				4.1生物多様性の向上 ①評価・認証の取得(レベル4以上)に該当する場合には、加要素にチェック ②取組み表による評価 1)自然資源の保全に該当する場合には、加要素にチェック ②取組み表による評価 4)トータルの緑地規模に該当する場合には、加要素にチェック	☐ ☐ ☐	1
	79	13-3	快適な室温を確保する	建築物衛生管理基準に準拠して室温を管理している				3-1の評価により自動転記		3
				以下の項目に積極的に取り組んでいる（該当項目2つ以上）、取組んでいる（該当項目1つ）、取組んでいない（0項目） ○今後増大する可能性のある強風被害に対する						

SDGsの ゴール/ ターゲット	全体 通し 番号	ゴール内 通し 番号	チェック項目	取組内容	取り組んで いない	取り組んで いる	積極的に取 り組んでい る	特筆事項	加 点 要 素	得 点
	80	13-4	耐風・飛来物対策、 水害対策、土砂災害 対策をする	備えを行っている（建築基準法以上の設計、合 わせガラス・雨戸・シャッター等の開口部の飛 来物対策） ○今後増大する可能性のある水害に対する備え を行っている（被災の可能性が低い地域、電気 設備等の配慮、避難方法の確認） ○今後増大する可能性のある土砂災害に対する 備えを行っている（被災の可能性が低い地 域、避難方法の確認） ○災害時の高齢者等弱者の避難への対応（余裕 を持った避難勧告の実施、移動方法、薬等の準 備等）	●	○	○	（加点する場合には特筆事項を記 入）	☐	1
	81	13-5	敷地のハザードを確 認し、情報を共有す る	以下の取組に取り組んでいる ○ハザードマップ等により、敷地のハザードを 確認 ○リスクがある場合の対策を講じている（水 害、液状化、津波、地震動、斜面災害、落雷）				9-6の評価により自動転記		1
	82	13-6	レジリエントデザイ ンの導入	設備（電力等）の自給率向上に関する取組みを 行っている				9-4の評価により自動転記		1
ゴール 14. 海の豊かさ を守ろう	ゴール14の内容はゴール12等に集約されています									
ゴール 15. 陸の豊かさ を守ろう	83	15-1	敷地内を積極的に緑 化する	建築が生物環境の保全と創出に関して配慮して いる				4.1生物多様性の向上 ①評価・認証の取得(レベル4以上)に 該当する場合には、加点要素に チェック	☐	1
								②取組み表による評価 1)自然資源の保全に該当する場合に は、加点要素にチェック	☐	
								②取組み表による評価 4)トータルの緑地規模に該当する場 合には、加点要素にチェック	☐	
	84	15-2	土壌汚染を防ぐ	対象敷地の場合、土壌汚染調査、拡散防止計画 の届出、措置を行う。さらに進んで無害化措置 を行う。				11-4の評価により自動転記		対象 外
	85	15-3	持続可能な森林から 木材を調達する	持続可能な森林から産出された木材の使用に関 する工夫をしている				8-10の評価により自動転記		1
	86	15-4	地域資源の活用に取り 組む	地域性のある素材の使用（構造材、内装材、外 装材、外構等へ）に関する工夫をしている				12-5の評価により自動転記		1
ゴール 16. 平和と公正 をすべての 人に	ゴール16の内容はゴール12等に集約されています									
ゴール 17. パートナー シップで目 標を達成し よう	87	17-1	持続可能な生産体制 の整った建材等の調 達に取り組む	持続可能な森林から産出された木材を使用して いる				8-10の評価により自動転記		1
	88	17-2	良好なパートナ ーシップ	以下の取組に取り組んでいる ○建物関係者による省エネパートナーシップ				（加点する場合には特筆事項を記 入）	☐	1

注意事項

1) Microsoft Excel 2016 は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

2) その他、記載されている会社名、製品名はすべて各社の登録商標または商標です。

3) 「CASBEE-不動産 評価ソフト」は、Microsoft Excel 2016 上で開発されたデータファイルです。これらのデータファイルは、著作権法上の保護を受けています。開発・著者、企画・発行者の許諾を得ず、無断で複製、転載(改造した場合も含む)することは禁止されております。

4) ただし、この評価ソフトを用いて、利用者の皆様が作成した入力および出力結果を使用する場合はこの限りではありません。その場合、この評価ソフトを利用した旨を明記してください。なお、パソコンの画面画像を使用する場合には、別途、Microsoft Corporationの許諾が必要になる場合がありますのでご注意ください。

5) この評価ソフトおよび操作マニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。

6) この評価ソフトの仕様および操作マニュアルの記載事項は、将来予告なしに変更することがあります。

7) この評価ソフトは Microsoft Excel 2016 で作成されたものであり、全てのコンピューター上での動作を保障するものではありません。

建築環境総合性能評価システム CASBEE-不動産（2021年SDGs対応版）評価ソフト

Microsoft Excel 2016 for Windows版
CASBEE-MP_2021(v.1.2)

2021年7月発行

企画・発行 一般社団法人 日本サステナブル建築協会

ソフトの内容等に関する問い合わせ

本ソフトの内容に関するご質問は、下記連絡先までE-mailにてお送りください。

なお、回答までに日数を要する場合がありますので、予めご了承ください。

また、Microsoft Windows、Microsoft Excel 2013 等の操作に関しては、

それぞれの操作マニュアルをご覧ください。

E-Mail casbee-info@ibec.or.jp

URL <https://www.jsbc.or.jp/research-study/casbee.html>

Copyright ©2021 Japan Sustainable Building Consortium (JSBC)